

研修報告 C班3グループ ブラックC3

タイトル : 低単位学生の学習補助のための ICT の活用～事前事後学習の導入

課題認識 :

グループ討議では、「責任ある情報公表」、「学士課程教育の質的転換」という大学が抱える2つのテーマを通して、「職員の役割」について考察した。いずれの議論においても、その意義、目的を確認した後、現状認識を経て課題への提案が行われた。

テーマ1 :

「責任ある情報を公表するための職員の役割を考える」において、初めに教育情報の公表は大学の社会的責任であり、さらには自らを振り返り、大学の質的向上を図るための指標ともなり得ることを確認した。しかしながら現状では、情報の内容や見せ方などいまだ不十分な点が多いとの指摘がなされた。そこで現在の教育情報の作られ方を見直した結果、より社会にアピールし、受験生や保護者などが真に求める情報を分かり易く公表するためには、それぞれの担当部署間のみならず教員との連携をも密にし、教育情報を作ってゆくべきであるとの意見で一致した。その際、職員からの積極的な働きかけによる「教職協働」の重要性が強調された。さらに情報公表とその保証は一体であり、職員には公表した情報を保証するために積極的な働きかけを行うことが望まれるとの結論に達した。

テーマ2 :

「学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割を考える」では、まずその必要性について要因を探ったところ、社会の変化に伴い求められる人材も質的に変化しており、そうした社会的要請に応えるべく大学も教育を根本的に見直さなければならないという理解に至った。そして、教育の質的転換のためには、教育課程の体系化や組織的な教育の実施、授業計画（シラバス）の充実、教学マネジメントの改善が必要であることを確認した上で、各項目についていくつかの例が挙げられた。中でも当グループは事前・事後学習の充実化が重要であると考え、そのためのプランを検討した。このプランはPDCAサイクルに基づき、e-learning と学生カルテを活用して、職員が学生と教員の間に入り、学生への学修支援および教員への授業支援に参画するというものである。このように職員の役割とは、学生と教員のコミュニケーションを促進させ、実際にそれを可能とするような仕組みを作ることではないかとの結論が得られた。

テーマ : 3

テーマ1, 2より、私たちのグループでは、今後必要とされる大学教育の質的転換に際して大学職員に求められることは、「大学の社会的責任を果たすため価値ある情報を公表（可視化）し、新しい価値を創造すること」であるという結論に至った。具体的にどのよ

うに大学業務に反映させるかという、公表した情報を保証するという目的に基づき、授業の質を向上させるための「ICTを活用した事前・事後学習の導入」を提案した。

まず、一クラスにおける学生の学力分布を例に挙げると、2割の優秀な学生に対して、同程度の低単位・低学習意欲者がいると考えられる。しかしながら大人数を相手とする大学の講義では、授業の質を下げるわけにはいかない。では、全ての学生に対して平等にサポートするためにどうするべきかと考えた時、①授業運営に職員が参画していく（教職協働）②ICTを駆使して学生の学習到達度を把握 という二つのポイントに着眼した。実行可能なプロセスとしては、授業を介して学生への学習調査を行い、一般的には多くの大学で教員が主導となり行っている成績表を、職員が共有できるように学生カルテを作成する。学生の学習到達度を教職員で常にチェックし、学生の学力に応じて職員が事前・事後学習のための教材を策定する。そうすることで、PDCAを用いた学習支援が可能となるのではないだろうか。

これはあくまで一例だが、重要なのは、“職員はいかにして大学および教員の授業に付加価値をつけ、情報を発信、整備するか”ということである。職員から主体的に教員に働きかけることで新しい価値を創造し、学生のためとなる情報を発信することができる。そのためのツールとして日々の業務にICTを活用し、他大学との差別化を計ることは今後大学職員に求められることの一つではないだろうか。

所感：

今回の研修全体を通して、今後求められる理想の職員像とは、職員から主体的に教員に働きかけることができるかどうかであるということを確認した。

期待に胸を躍らせて入学する新入生、可能性を広げるため試行錯誤する在学生、そのような彼らのやる気と期待を削ぐことのないよう、大学の求められる責任は極めて大きい。その期待に応えるためには、職員の学生の想いに答えたいと思う気持ちと、その想いを実現するためにICTスキルを身に付ける必要がある。今後ICTの使用機会はますます増え、業務の効率化を図るためには、その習得が必須であると改めて感じた。今後もICT関連のスキル習得に努め、どんな新しいことにも対応できるようにすることが重要である。

最後に、今回他大学の職員との意見を交換し、議論できたことは大変良い経験であった。今後も本研修でできた繋がりを大事にし、他大学との交流を続けていきたい。